

特別賞岡山賞

小澤佳奈 先生 受賞

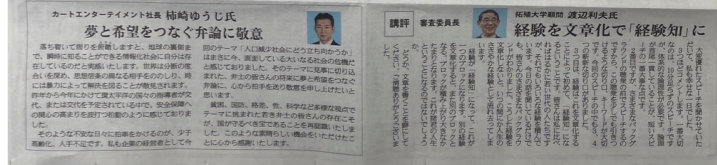
産経新聞 主催

第41回土光杯

全日本青年弁論大会



土光杯 法政大学 藤井諭さん ② 貧困の連鎖を断ち切る



公務員 小澤佳奈さん ② 外国にルーツ「日

人口減少に伴い、日本は多くの外国労働者を受け入れていますが、労働力を数だけで補うことに警鐘を鳴らします。

かつてのフランスは大量の移民を受け入れた結果、失業の加速や深刻な民族問題に発展し、現在も犯罪が頻発しています。このままでは日本も同じ轍を踏みかねません。最近の日本では、外国にルーツのある子供の数が年々増加しています。

外国にルーツのある子供とは、第一言語が日本語ではない子供を示しますが、彼らの中には日本語指導が不十分

特別賞岡山賞

のまま日本の学校に通い、不安や孤独を抱えて生活している子供が多くいます。私は、教育現場においてそのような状況を目の当たりにし、教師としての無力感と同時に今後の日本への危機感を覚えました。

外国にルーツ「日

日本の未来を守る」

その後、日本人学校での勤務を経て、外国にルーツのある子供たちにとって、「居場所」や言語の壁を緩和することの大切さを実感。外国にルーツのある子供たちへ日本語を教えるボランティアを始めました。

当初は不安そうにしていた子供も、少しずつ自信をつけ、異国の地での「受け身」の生活から一転、日本での生活に「主体性」を帯びてきました。また、日本語習得により自信を付け、日本人と仲良くなるだけでなく、他の外国にルーツのある子供と日本人をつなぐ懸け橋になっている生徒と出会い

こうした経験から、単に外国人労働者を増やすのではなく、日本人の精神や価値観を大切にし、習慣にも適応できる外国にルーツのある子供を増やすことは、長期的にみると日本の未来を守ることに繋がると考えます。さまざまなルーツの子供たちが1つの教室で学び、お互いの文化を知り、共に成長していく。その先に、日本を「第二の故郷」と大切にし、ルーツを超えて相手を尊重することができたら、これ以上の喜びはありません。

時代や人が変わっても、日本のよさは変わらず守り続け、人口減少社会を生き抜いていく子供たちを教育現場から育てていきます。